

令和元年度 佐賀県教育センター「個別実践研究」

高等学校英語科教育

研究主題

新学習指導要領の趣旨を踏まえた発信力を高める指導方法の在り方
— 「話すこと」を意識した統合的な言語活動の充実を通して—

草場 麻子（佐賀県教育センター所員）

1 研究の概要

(1) 研究主題

新学習指導要領の趣旨を踏まえた発信力を高める指導方法の在り方
－「話すこと」を意識した統合的な言語活動の充実を通して－

(2) 主題設定の趣旨

平成30年7月に告示された新学習指導要領では、「複数の領域を統合させて授業をしたり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を図る資質・能力の育成」⁽¹⁾を目標に掲げています。複数の領域とは、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の4技能5領域であり、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に設定されました。高等学校英語科教育において、統合的な言語活動を通じた発信力の強化がさらに求められています。

今回の改訂に当たっては、「高等学校の授業においては、依然として外国語によるコミュニケーション能力を意識した取組」⁽²⁾が適切に行われていないことが指摘されています。特に読んだことについて意見を述べ合うなど複数の領域を結び付けた言語活動がなされていないことを課題に挙げています。また、「平成29年度英語教育改善のための英語力調査」では、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の言語活動においてヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）A2レベル以上の生徒の割合が全体的に低く、特に「話すこと」において課題が大きいことが分かりました。これらの課題、現状を踏まえ、「話すこと」を意識した統合的な言語活動を充実させることによって、生徒の発信力を高める指導方法の在り方を考える必要があります。

本研究では、発信力とは、相手意識をもって、意欲的に、自分が学んだ内容だけでなく自分の思いや考えを伝え合う力と考えます。田中武夫・田中知聡は、「自己表現とは、自分の思いや考えを伝えることです。自分の知っていることや考えていること、あるいは自分の気持ちを他者に表現することです」⁽³⁾と定義しています。また、「自己表現活動に生徒を積極的に取り組ませるためには、まず教師自身が言語活動の本質をしっかりと理解することが欠かせません。ここでいう言語活動の本質とは、何のためにその活動をするのか、その活動にはどのような特徴があるのか、どのように活動を工夫すべきなのか、です」⁽⁴⁾と述べています。今までの自分の授業を振り返ると、自己表現活動に取り組む時間が少なく、生徒が英語を用いて自分の思いや考えを伝え合う機会を十分に設定することができていませんでした。そこで、「話すこと」と他の領域を結び付けた統合的な言語活動であるReproduction活動を通して、発信力を高める指導方法の在り方を探りたいと考えました。

これらのことにより、本研究では、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「話すこと」を意識した統合的な言語活動を充実させることが生徒の発信力を高めることにつながると考え、本主題を設定しました。

(3) 研究の目標

生徒の発信力を高めるために、「話すこと」を意識した統合的な言語活動の在り方を探る。

(4) 研究の仮説

授業において、教科書本文の内容を相手に伝え、自分の思いや考えを伝え合うReproduction活動を取り入れることで、相手意識をもって内容を伝えようとしたり、「話すこと」への意欲を高めたりすることができるだろう。

(5) 研究方法

- ア 新学習指導要領に関する理論研究
- イ 英語学習において、「話すこと」に対する意識調査の考察
- ウ 仮説に基づいた授業実践及び自己表現活動の有効性の検証

(6) 研究内容

- ア 新学習指導要領を踏まえ、生徒の発信力を高める指導方法の在り方を探る。
- イ 生徒のこれまでの英語学習に関する意識調査に基づいて、実態を把握し、手立てを構築する。
- ウ 検証授業により、仮説を検証し、「話すこと」を意識した統合的な言語活動の充実に向けた指導方法の有効性を示す。

2 研究の実際**(1) 新学習指導要領における理論研究**

- ア 外国語科の目標について

平成28年度12月の中央教育審議会答申において、現行の高等学校外国語科学習指導要領の成果と課題が示されました。これらを踏まえて、新学習指導要領では、外国語科の目標を次のように設定しています⁽⁵⁾。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』 平成30年7月 p.12

目標の中にある「情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」とは、「理解する」「表現する」という単に受け手となったり送り手となったりする単方向のコミュニケーションだけでなく、「伝え合う」という双方向のコミュニケーションを重視していることを意味します。

この目標を実現するために、育成すべき資質・能力を以下のように、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理し、明確にしています⁽⁶⁾。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを明確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら主体的・自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』 平成30年7月 p.13, p.14, p.16

外国語の学習においては、語彙や文法等の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく、知識・技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、繰り返し思考・判断・表現することを通して、3つの資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要だと考えます。

イ 「話すこと」の目標について

新学習指導要領では、「話すこと」が「話すこと [やり取り] 」と「話すこと [発表] 」に分けられ、4技能5領域の言語活動の目標が示されています。今回の学習指導要領の改訂に当たって、新設された英語コミュニケーションⅠにおける「話すこと [やり取り] 」と「話すこと [発表] 」の目標は次のように設定されています⁽⁷⁾

<p>話すこと [やり取り]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>話すこと [発表]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。</p> <p>文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』 平成30年7月 pp. 25-27</p>

「話すこと [やり取り] 」においては、原稿を事前に用意してそのまま読んだりするのではなく、即興で行うこととしています。一方で、「話すこと [発表] 」においては、発表のアウトラインや発表用のメモを書いたりして事前の準備に時間を確保するが、発表においては、事前に書いた原稿をそのまま読み上げることがなく、聞き手に分かりやすく話すようにすることが示されています。

本研究では、「話すこと [発表] 」に重点を置き、「話すこと」を意識した統合的な言語活動として、Reproduction 活動の有効性について探り、生徒の発信力を高める指導方法について考えます。

(2) 検証授業クラスの生徒に対する実態調査

検証授業の対象となる第1学年の生徒に実施した実態調査(R1. 7. 19)の結果を分析しました。

ア 質問項目

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> ① 英語に対してあなたが考えることを教えてください。 ② あなたが英語を学ぶ目的を教えてください。 ③ 英語学習で楽しいと思うものを教えてください。 ④ 英語は得意ですか。 ⑤ 英語を話すことは得意ですか。 ⑥ ペアワークやグループ活動は好きですか。 ⑦ 日常生活で、人とコミュニケーションをとるのは好きですか。 ⑧ 英語学習について授業以外での取り組みを教えてください。 |
|---|

イ 実態調査の結果

表 1 実態調査の項目①の回答(複数回答)

n=40

国際社会で重要である	29名(73%)	義務教育として全員が学ぶものである	8名(20%)
世界の共通語である	29名(73%)	すべての職業で必要である	5名(13%)
将来役に立つ	24名(60%)	その他	1名(3%)
英語が話せるとかっこいい	16名(40%)		

表 2 実態調査の項目②の回答(複数回答)

話せるようになるため	29名(73%)	外国の文化を学ぶため	8名(20%)
就職のため	16名(40%)	趣味に生かすため	3名(7%)
受験のため	13名(33%)	特になし	2名(5%)
一般常識として	14名(28%)	その他	0名(0%)

表 3 実態調査の項目③の回答(複数回答)

外国の文化やスポーツを知ること	28名(70%)	話すこと	7名(18%)
読むこと	19名(48%)	聞くこと	6名(15%)
単語・熟語を覚えること	11名(28%)	書くこと	6名(15%)

「英語に対して考えること」の項目では、「国際社会で重要である」「世界の共通語である」と回答した生徒が29名(73%)で一番多く、現代社会において英語を学ぶ必要性を感じている生徒が多いことが分かります(表1)。また、「あなたが英語を学ぶ目的」の項目では、「話せるようになるため」と回答した生徒が29名(73%)いました(表2)。このことから、受験や就職のためだけでなく、グローバル社会の中で、仕事や日常生活などでも英語を使う機会を想定していることが分かりました。「英語学習で楽しいと思うもの」の項目では、28名(70%)の生徒が「外国の文化やスポーツについて知ること」と回答し、自分の人生を豊かにするものとして異文化理解に努めたいという思いをもっていることが分かりました(表3)。

表 4 実態調査の項目④～⑦の回答

質問	得意・好き	不得意・嫌い
英語は得意ですか	14名(35%)	26名(65%)
英語を話すことは得意ですか	4名(10%)	36名(90%)
ペアワークやグループ活動は好きですか	36名(90%)	4名(10%)
日常生活で、人とコミュニケーションをとるのは好きですか	22名(45%)	18名(55%)

表 5 実態調査の項目⑧の回答(複数回答)

宿題をする	29名(73%)	TVやラジオを使う	2名(5%)
特になし	6名(15%)	ALTや外国人と話をする	2名(5%)
英文を日本語に訳す	5名(13%)	ノートを見直す	1名(3%)
単語・熟語を調べる	5名(13%)	英語塾、英会話学校に通う	0%

一方で、「英語は得意ですか」の項目では、26名(65%)が「不得意」と回答しており、「英語を話すことは得意ですか」の項目では、「不得意」と答えた生徒は36名(90%)に上りました(表4)。**表1～表4**の回答より、英語を学ぶ目的があり、英語の必要性や楽しさを感じているものの、多くの生徒が不得意であると感じていることが分かりました。その原因の一つとして、授業以外で英語に触れる機会の少なさが考えられます。「授業以外での英語学習の取り組み」において、「宿題」と回答した生徒が29名(73%)で最も多く、授業以外で英語を話したり、書いたりする時間はほとんどない状況だということが分かりました(表5)。また、項目⑥の「ペアワークやグループ

活動は好きですか」に対して、36名（90%）の生徒が「好き」と回答していました。このことから、授業において、ペアやグループで統合的な言語活動に取り組むことが生徒の意欲を高め、発信力を高めることにつながると考えます。

(3) 本研究におけるReproduction活動の指導方法

理論研究及び実態調査の結果を基に、発信力を高めるために教科書本文の内容を自分で再現し、自分の思いや考えを伝え合うReproduction活動を取り入れることとし、具体的な指導の手立てを次のように設定しました。

ア 単元構成の工夫について

単元構成については、1パートを2時間に分け、1レッスン3パートを6時間で構成しました（表6）。1時目に新出単語、新出文法の導入、読解に取り組みます。2時目にReproduction活動を行いました。高等学校では、1パートを1時間で終わる単元構成が多いですが、高等学校の英文は難易度が高く、内容理解に時間がかかります。そこで、1パートに2時間を確保することで、読んだことを話したり書いたりする活動を充実させることができると考えました。

表6 単元構成表

Part 1		Part 2		Part 3	
1時目	2時目	1時目	2時目	1時目	2時目
語彙・文法 内容理解	Reproduction 活動	語彙・文法 内容理解	Reproduction 活動	語彙・文法 内容理解	Reproduction 活動

イ Reproduction活動の手順について

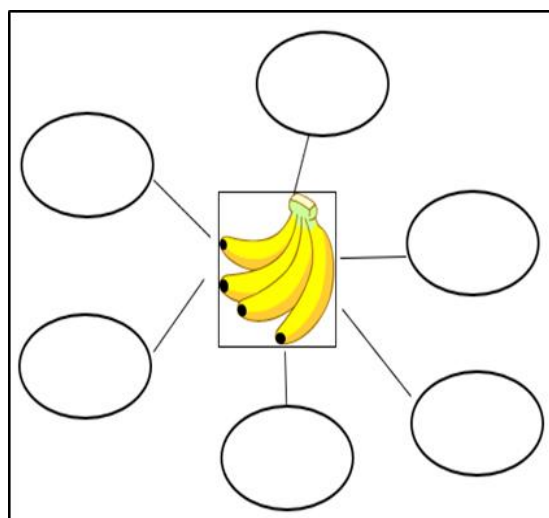
1回目の検証授業で、生徒にReproduction活動について説明した手順は以下の通りです。

- 1 本文の内容をmappingを使ってまとめる。
- 2 mappingを使って本文の内容を自分の言葉でreproduceする。また、本文の内容をまとめただけでなく、最後に自分の考えや本文に対する感想を付け加える。
- 3 グループで発表する。その際、ルーブリックを使って自己評価・相互評価をする。
- 4 最後に、口頭で発表した英文をワークシートに書く。

最初の説明のときのみ、教師がReproduction活動のモデルを示します。また、統合的な言語活動の充実を目指して、本文の内容を自分の言葉でreproduceしたものを英文で書く活動を取り入れました。

ウ mappingについて

本文の内容を整理するために、mappingを行います。教科書を読みながら、伝えるべき内容を整理して、題材に関わるキーワードを抜き出していきます（資料1）。キーワードはワークシートで与えられた枠にとらわれず、自分で追加することもできることを伝えます。発表するときは、暗記ではなく、自分で作成したmappingを基にグループ内で発表することを意識し、まとまりのある内容を話すように指示します。このmappingは、新学習指導要領の「話すこと [発表]」の目標にある発表の事前準備として、アウトラインやメモに基づいて即興的に話すにつながるだけでなく、生徒が内容理解を深めることになると考えます。



資料1

エ **Reproduction**活動におけるルーブリック評価とグループ内発表について

本研究では、生徒は発表時に自己評価・相互評価をします。評価基準として、ルーブリックを使います(表7)。発表する時の態度として、mappingばかり見て話をするのではなく、聞き手を見て、反応を確認しながら話をするのを意識して練習するように指示します。ルーブリックを使うことで、語彙・語法の習得や音読に対する意識が高まり、**Reproduction**活動を行うために、内容について深く理解することができると考えられます。また、1グループ4人で構成し、発表者は1分以内で発表します。発表後、評価シートを使って、自己評価・相互評価をし、コメントを書きます。発表をしやすい雰囲気を作るために、発表者の方を向いて、理解しようとする態度で発表を聞くなど、発表者以外の生徒の聞く態度についても説明をします。

表7 「Reproduction活動」に関するルーブリック

	内容	態度	発音
A 5点	自分の言葉で正確に内容を伝え、最後に自分の考えを述べるができる。	積極的に内容を伝えようとする態度が見られる。(声, アイコンタクト, ジェスチャー)	英語らしい発音で流ちょうに発表している。
B 3点	自分の言葉で内容を伝えることができる。	内容を伝えようとする態度が見られる。 (声, アイコンタクト, ジェスチャー)	英語らしい発音で発表している。
C 1点	自分の言葉で内容を伝えることができていない。	内容を伝えようとする態度があまり見られない。 (声, アイコンタクト, ジェスチャー)	カタカナ読みになっている。

(4) 授業実践

本研究では、第1学年において検証授業を行いました。**Reproduction**活動を中心とした授業を3回行ったので、3回目の検証授業について以下の通り示します。

ア 単元名 Lesson 5 Banana Paper (Power On English Communication I)

イ 本時の目標 Banana Paperについて知ったことを自分の言葉で表現し、英語で伝える。

【思考・判断・表現】

過程	学習活動	指導及び支援
導入	1 Warm-up ・前時の内容の質問に答え、ペアで確認する。 2 Reading ・音読で発音確認	・前時の内容について質問し、答えをペア、全体で共有した。 ・正しく発音することができるように支援した。

<p>展開</p>	<p>3 Mapping</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を見ながら、キーワードを抜き出す。 <p>4 Reproduction I</p> <div data-bbox="306 300 965 689" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Lesson5 Banana Paper Part 3</p> <p>○Reproduction</p> </div> <p style="text-align: center;">生徒のワークシートの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> mappingを基に練習した後、ペアで確認する。 <p>5 Reproduction II</p> <ul style="list-style-type: none"> 4人グループ内で1人ずつ発表をする。各発表後、自己評価・相互評価をする。 <div data-bbox="395 952 928 1263" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">グループ内発表の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本文の理解ができているか、キーワードを見分けることができているか確認した。 ルーブリックを掲示し、評価基準について説明した。 <ul style="list-style-type: none"> 発表がスムーズに進むように、生徒に発表の順番を決めさせたり、時間を測ったりした。 <ul style="list-style-type: none"> 生徒のReproduction活動に対する感想を述べた。
<p>まとめ</p>	<p>6 Writing</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに発表した内容を書く。 本時の活動の振り返りをし、授業の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 記入するときの注意事項を述べた。

(5) 授業実践における手立ての有効性についての考察

Reproduction活動を取り入れたことで、相手意識をもって内容を伝えようとする事ができたかについて、授業での発表、自己評価・相互評価またワークシートの記述内容を基に分析しました。本研究では、以下の3つの視点を設定しました。

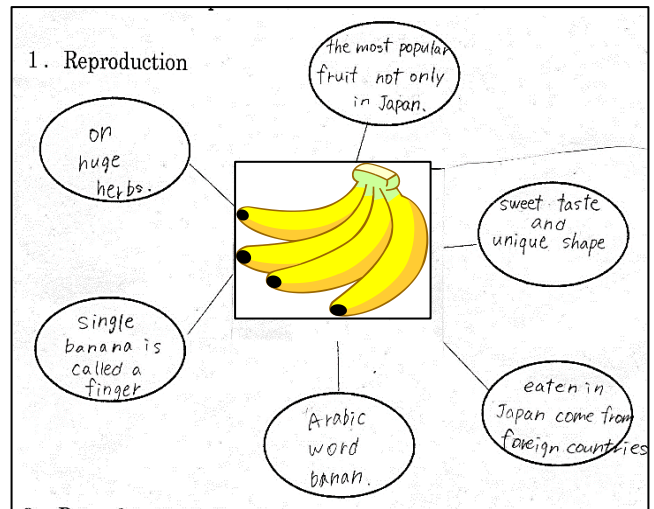
- I 本文概要や要点を的確に捉え、mappingすることができている。 (ワークシート)
- II mappingを基に、自分の言葉で相手に伝える工夫をしている。 (授業時の観察、録音)
- III 発表をするとき、伝える内容を整理し、相手に伝えようとする態度が見られる。 (ルーブリック、感想)

上記の視点から、英語に対する得意、不得意という意識や学習意欲に関わらず、Reproduction活動は有効なのかを検証するために、英語の成績が上位、中位、下位の生徒をそれぞれ1名ずつ抽出し、以下のように分析しました。ワークシートや相互評価だけではなく、授業時の観察、ICレコーダーでの録音も分析方法として使用しました。

ア 個人の分析

生徒X

生徒Xは、英語学習に対する意識が高く、成績も上位の生徒です。パート1のmapping時から、自分でキーワードを抜き出し、mappingを作成することができており、パート3は難しい内容でしたが、的確に内容を捉えていました(資料2, 資料3)。授業に対する感想では、「文章の内容を理解することはもちろん、相手に伝えるということを意識して活動できた」と答えていることからグループ内での発表は相手意識をもつ機会となったことが分かります。また、自己評価・相互評価ともに1回目から高い評価でした(表8)。

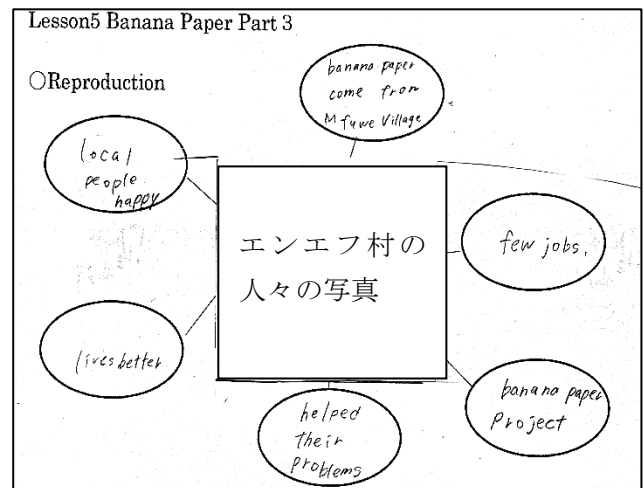


資料2 生徒Xのパート1のmapping

表8 生徒Xの自己評価と相互評価の得点

※それぞれ15点満点

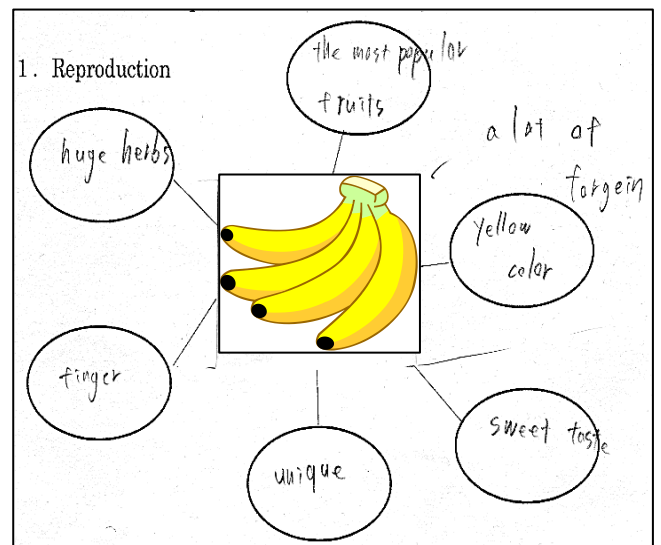
	Part1	Part2	Part3
自己評価	13	13	12
相互評価①	13	13	15
相互評価②	15	15	11
相互評価③	15	14	15



資料3 生徒Xのパート3のmapping

生徒Y

生徒Yは、英語の成績がクラスで中位の生徒です。ふだんの授業では、発言をするような生徒ではないですが、Reproduction活動に積極的に取り組む姿が見られました。聞き手に分かりやすく伝えるために、パート1のmappingだけでなく、内容が難しかったパート3でも自分でキーワードを捉えていました(資料4, 5)。発表では、ジェスチャーを使うなど相手に伝えようとする工夫が見られました。また、1回目の発表で、友達から自己評価よりも高い評価を得られたことが意欲的な活動に結び付いたと思われます(表9)。グループ活動を取り入れたことも有効であったと考えます。

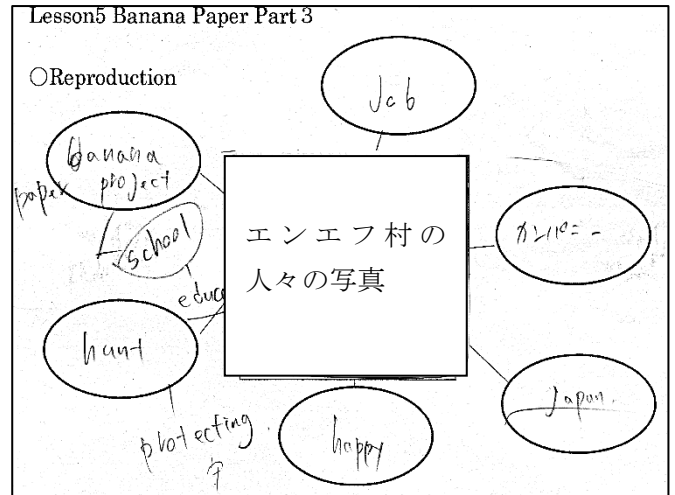


資料4 生徒Yのパート1のmapping

表9 生徒Yの自己評価と相互評価の得点

※それぞれ15点満点

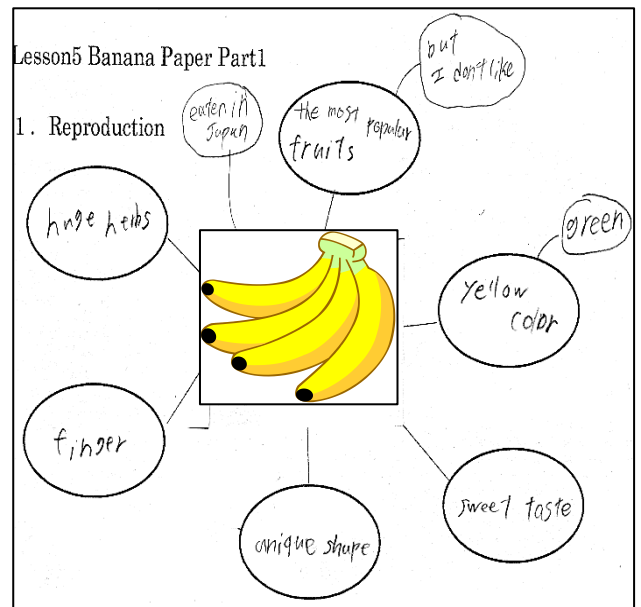
	Part1	Part2	Part3
自己評価	7	9	9
相互評価①	11	13	13
相互評価②	13	11	15
相互評価③	13	11	15



資料5 生徒Yのパート3のmapping

生徒Z

生徒Zは、英語に対する苦手意識があり、成績は下位の生徒です。パート1のmappingにおいては、教師の例示したキーワードをそのまま使用しています。パート2、3に進むに従って、内容も難しくなるのでキーワードを捉えることは難しそうでした(資料6, 7)。グループ内での発表時は、他の生徒の発表を参考にしながら自分の言葉で伝えようとする姿が見られました。相互評価はあまり高くありませんが、同じメンバーで毎回評価をしていたので、前時よりもよいところを教えてもらいながら楽しく活動に取り組んでいたことが、自己評価の高さに表れていました(表10)。このことから、英語が苦手な生徒も相手意識をもって伝えようとしていたことがうかがえました。

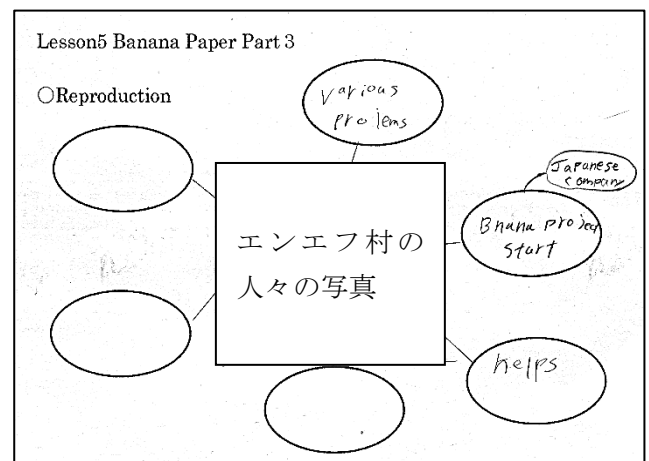


資料6 生徒Zのパート1のmapping

表10 生徒Zの自己評価と相互評価の得点

※それぞれ15点満点

	Part1	Part2	Part3
自己評価	13	12	13
相互評価①	11	5	7
相互評価②	10	10	10
相互評価③	11	7	7



資料7 生徒Zのパート3のmapping

イ Reproduction活動に対する感想

検証授業後の生徒のReproduction活動に関する感想を基に、分析しました。

- ・ 3回活動してきて、回を重ねるごとに、すらすら話せるようになっていきました。
- ・ 3回目が1番しっかり伝えることができました。文章を作るためにも単語の量を増やそうと思いました。
- ・ 少し難しかったが、伝えることができた時の達成感が大きかったです。
- ・ 文章を考えてから言うのではなく、キーワードを基に相手に伝えることを通して、英語で自分の伝えたいことを伝える力が付いたと思いました。
- ・ いつもの授業より自分から取り組むことが多く、積極的にできました。
- ・ パート1～3と進んでいくごとにコツをつかみ、分かりやすく伝えることが目標になっていきました。
- ・ グループ活動を通して、英語で自分の伝えたいことを伝える力が付いたと思いました。またぜひやってみたいと思いました。

資料 8 検証授業後の生徒の記述

1回目の検証授業では、Reproduction活動に関する感想は「難しかった」とだけ書いている生徒が多くいましたが、3回目の検証授業後では**資料 8**のような感想を書いている生徒が90%いました。ふだんの授業よりも積極的、主体的に活動し、英語を話すことに慣れてくる生徒の姿が見られました。事前の実態調査で、「ペア活動やグループ活動が好き」と回答した生徒が90%だったこともあり、生徒は楽しく、意欲的に取り組み、まとめた内容を相手に伝えたいという気持ちが表れていたと考えます。

(6) 実態調査の結果を基にした手立ての有効性についての考察

Reproduction活動を取り入れたことで、「話すこと」への意欲を高めることができたかについて、事後調査の結果(R1. 11. 5)より分析します。

ア 質問項目

- ① 英語に対してあなたが考えることを教えてください。
- ② あなたが英語を学ぶ目的を教えてください。
- ③ 英語学習で楽しいと思うものを教えてください。
- ④ 英語は得意ですか。
- ⑤ 英語を話すことは得意ですか。
- ⑥ ペアワークやグループ活動は好きですか。
- ⑦ 日常生活で、人とコミュニケーションをとるのは好きですか。
- ⑧ 英語学習について授業以外での取り組みを教えてください。

イ 実態調査の結果

表11 実態調査の項目①の回答(複数回答)

n=40

回答	事前	事後
国際社会で重要である。	29名 (73%)	36名 (90%)
世界の共通語である	29名 (73%)	28名 (70%)
将来役に立つ	24名 (60%)	26名 (65%)
英語が話せるとかっこいい	16名 (40%)	12名 (30%)
義務教育として全員が学ぶものである。	8名 (20%)	6名 (15%)
すべての職業で必要である。	5名 (13%)	3名 (7%)
その他	1名 (3%)	1名 (3%)

表12 実態調査の項目②の回答(複数回答)

回答	事前	事後
話せるようになるため	29名(73%)	27名(68%)
就職のため	16名(40%)	16名(40%)
受験のため	13名(33%)	14名(35%)
一般常識として	14名(28%)	11名(28%)
外国の文化を学ぶため	8名(20%)	13名(33%)
趣味に生かすため	3名(7%)	3名(7%)
特になし	2名(5%)	0名(0%)

表13 実態調査の項目③の回答(複数回答)

回答	事前	事後
外国の文化やスポーツを知ること	28名(70%)	27名(68%)
読むこと	19名(48%)	16名(40%)
単語・熟語を覚えること	11名(28%)	6名(15%)
話すこと	7名(25%)	11名(28%)
聞くこと	6名(15%)	9名(23%)
書くこと	6名(15%)	10名(25%)

表14 実態調査の項目④～⑦の回答

質問		得意・好き	不得意・嫌い
英語は得意ですか	事前	14名(35%)	26名(65%)
	事後	8名(20%)	32名(80%)
英語を話すことは得意ですか	事前	4名(10%)	36名(90%)
	事後	4名(10%)	36名(90%)
ペアワークやグループ活動は好きですか	事前	36名(90%)	4名(10%)
	事後	37名(93%)	3名(7%)
日常生活で、人とコミュニケーションをとるのは好きですか	事前	22名(55%)	18名(45%)
	事後	18名(45%)	22名(55%)

表15 実態調査の項目⑧の回答(複数回答)

回答	事前	事後
宿題をする	29名(73%)	24名(60%)
特になし	6名(15%)	8名(20%)
英文を日本語に訳す	5名(13%)	2名(5%)
単語・熟語を調べる	5名(13%)	7名(18%)
TVやラジオを使う	2名(5%)	2名(5%)
ALTや外国人と話をする	2名(5%)	0名(0%)
ノートを見直す	1名(3%)	1名(3%)
英語塾、英会話塾に通う	0名(0%)	2名(5%)

「英語は国際社会で重要である」と答えた生徒が検証授業前と比べると、73%から90%に上昇しました(前頁表11)。また、英語を学ぶ目的として「話せるようになるため」が一番多く、英語でコミュニケーションを図りたいという意欲は事前と変わらず高いものがありました(表12)。「英

語学習で楽しいと思うものを答えてください」では、「話すこと」、「書くこと」、「聞くこと」についていずれも事前よりも多くの生徒が楽しいと回答していました（前頁表13）。英語に対して苦手意識をもつ生徒の割合は高く、授業以外で英語を話す機会は少ないままでした（前頁表14, 15）。しかしながら、検証授業後の感想も踏まえて考えると、Reproduction活動を通して、英語でコミュニケーションをすることの楽しさを知り、授業の中では英語で積極的に話すということにつながっているということが分かりました。これらのことから、Reproduction活動を計画的・継続的に取り入れることで、更に「話すこと」への意欲を高めていけるものと考えます。

3 研究のまとめ

(1) 成果

- Reproduction活動を通して、新学習指導要領の趣旨を踏まえた発信力を高める指導方法について提案することができました。
- 単元構成を工夫することで、相手に読んだことを自分の言葉で伝える機会としてグループ内で発表する時間を継続的にもつことができました。Reproduction活動の回数を重ねるごとmappingにも慣れ、生徒たちは主体的に活動する姿が見られるなど発信力を高めるきっかけとなりました。
- Reproduction活動を取り入れたことで、今まで不十分だった「話すこと」の活動が充実し、より統合的な言語活動につなげることができたと考えます。また、教科書の本文を使用することは、生徒にとって取り組みやすく、継続しやすい手立てだということが分かりました。
- Reproduction活動をゴールに設定したことで、読み取った内容を聞き手に分かりやすく伝えなければならないので、内容理解において生徒の読解の質を高めることができました。また、発信力を身に付けるために、生徒は語彙や文法表現の習得、また音読も積極的に行うようになりました。

(2) 課題

- Reproduction活動後のフィードバックの時間が不足していたこともあり、表現の正確さや適切さについての指導までには至りませんでした。口頭で言ったことをもう一度教科書の英文と確認する時間を確保するなどの工夫やパフォーマンステストをすることにより、Reproduction活動の質を上げる必要があると考えます。
- 単元構成においては、本研究で取り組んだ検証授業ほどReproduction活動の時間を確保する余裕がない場合もあると考えます。その場合においても、知識の定着に偏ることなく生徒が発信力を高める機会を得ることができるよう、単元構成を工夫する必要があります。

4 引用文献・参考文献

《引用文献》

- (1) (2) (5) (6) (7) 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編英語編』 平成30年 7月
p. 12, p. 6, p. 12, p. 13, p. 14, p. 16, pp. 25-27
- (3) (4) 田中武夫・田中知聡著 『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』 2003年12月 p. 8, p. 2

《参考文献》

- ・ 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編英語編』 平成30年 7月
- ・ 小林 翔 著 『成功する指導技術& 4技能統合型活動アイデア 50』 平成 29年 明治図書出版

Reproduction 評価シート

自分へ

観点	内容	態度	発音	合計
点数				() 点
コメント				

.....

() さんへ

観点	内容	態度	発音	合計
点数				() 点
コメント				

【 】より

.....

() さんへ

観点	内容	態度	発音	合計
点数				() 点
コメント				

【 】より

.....

() さんへ

観点	内容	態度	発音	合計
点数				() 点
コメント				

【 】より

No.() Name ()

Reproduction (1)

Part1 の内容を聞き手に分かりやすく自分の言葉で説明し、コメントしよう。

【Reproduction】の手順

- ① mapping を用いて、本文の内容を整理する。
- ② 本文の内容を mapping を基に自分の言葉で reproduce し、ペアの相手に聞いてもらう。
- ③ 4人グループで評価し合う。
- ④ 口頭で述べた内容をワークシートに書く

【「Reproduction」活動に関するルーブリック】

	内容	態度	発音
A 5点	自分の言葉で正確に内容を伝え、最後に自分の考えを述べることができる。	積極的に内容を伝えようとしている。 (声、アイコンタクト、ジェスチャー)	英語らしい発音で流ちょうに発表している。
B 3点	自分の言葉で伝えることができている。	内容を伝えようとする態度が見られる。 (声、アイコンタクト、ジェスチャー)	英語らしい発音で発表している。
C 1点	自分の言葉で内容を伝えることができていない。	内容を伝えようとする態度があまり見られない。 (声、アイコンタクト、ジェスチャー)	カタカナ読みになっている。